

「神殿の破壊と再建」

～ホメオスタシスⅢ クラッシュ&ビルド～

ヨハネ2：13～22

ホメオスタシスは恒常性、保つという意味を持ちます。その恒常性が成されるために大切なことは、変わるべきものが壊れ新しく生まれ変わり、保つべきものをいかに保つかが大切なのです。イエス様は、過ぎ越しの祭りの中でたくさんのお餅を捧げるために不正な商売をしていたことに対して憤られました。商売自体が悪いといっているのではなく、目的を誤っていたことに対してイエス様は怒ったのです。そして、「この神殿を壊してみなさい。わたしは三日でそれを建てよう」(ヨハネ2：19)と言われました。私たちには、真理を押し曲げてでも自分の思いを押し通したいという弱さがあります。イエス様がされたように、変わるべきものを新しく変えていくためには、壊す必要があるのです。

■ クラッシュ&ビルドの恒常性！！

その一つの例として、体格を形成する骨があります。骨は、組み合わさって骨格であり、その髄では血液を作り全身に送り出すという大きな仕事をしています。その骨自体を形成しているのが、骨芽細胞という骨形成をする細胞(オステオカルチン)と、破骨細胞という骨吸収(壊す)をする細胞のよって再構築を繰り返して、常に新しく生まれ変わっています。その2つの異なる細胞のバランスによって、骨の量は常に保たれています。そして生まれ変わることによって、老朽化を防ぎ、しなやかな強さを常に維持しているのです。骨の細胞は日常の中で、人が歩いたり走ったりする身体の振動によって、その振動から神経伝達(サイトカイン=骨芽細胞への指令)を受け、絶えず新しくなり続けます。それが骨の恒常性なのです。その神様の作られた完全な法則は、私たちの身体にもこうして存在しています。それは骨のみならず、私たちの肉体が強くなるために神様によって定められているように、精神も価値観もその人生もまた同じように、変えるべきを変えるために壊され、新しくされていくことが大切なのです。

■ 1. あなたはあなたを壊せるか？ 何を思うのか？

「あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす。」
ヨハネ2：17

私たちは、知識に基づく経験に自信をもっているうちは、指摘に対して腹を立ててしまいます。否定されたように感じて腹が立つのです。プライドが傷つけられたように思えるからです。しかし、その怒りが自分のためであると、結果何も良いものが残りません。だからこそ、それが神様のものであるか、見極めることが必要です。そのポイントは、腹が立つのか、憤りが生じるか、それは自分のためなのか、相手のためなのかです。神様の思いであるならば聖なる憤りですから、怒りにはならないからです。自分のための

怒りに打ち勝ってこそ本当の自信喪失となり、神様の思いに立つことができるようになるのです。

■ 2. プライドと自信の結合

プライドと自信は、ガン細胞のようにあなたをむしばみます。その結合は、教会と家庭の間で二面性をもってしまいます。経験による自信は必ず壊れます。神様は、私たちの経験によるプライドと自信の結合を、自信喪失させ、弱さを通して神様を誇る姿へと導きたいのです。壊され新しくされたものはさらに強くなれるからです。責任はすべて神様が負ってくださり、常に私たちの後ろ盾でいてくださっています。その自信の中で神様とともにいれば、自分のために怒らずに、相手のために憤り神様と共に歩むことができるのです。イエス様が十字架で完全に壊されたことによって、すべてが新しくされたという恵みがすべての真実です。

時には傷つくこともあるかもしれませんが、しかし、それぞれが諦めずに信じようと願い続ける教会の中でこそ、自分の変わるべき部分が壊されます。そこに働かれる神の恵みを信じ、ありのままの姿で完全なる再建を望みましょう。プライドを捨て去り仕えるものと低くなった状態になると、神様によって高くされ周りがしっかり見えるようになるのです。それはあなたが本当の収穫を手にするために必要な破壊と再建なのです。

■ 3. 知識と頑な 芯があるのか？

神様に知恵を求めましょう。私たちは自分の知識と頑なで立っています。決断して、頑なを捨て、主の前にありのままの姿になって素直に知恵を求めるのです。着飾らず、教会と家での姿が同じように過ごせる人には、妨害はやってきません。主にあって誇れるものになるために、二心を壊しましょう。「あなた方は神の神殿であり、神の御霊があなた方に宿っておられることを知らないのですか。もし、誰かが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなた方がその神殿です。」(Iコリント3：16～17)世の終わりまで共にいてくださり、3日で神殿を建て直すことの出来る神様に信頼しましょう。

■ まとめ

あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす。多くの場合、神のことでなく、自分のことを思う、盾を持った偽善者です。神様を欺いてはいけません。私たちの目線の先にいつもイエス様がいらっしゃいますように。イエス様を心にお迎えし、再建の決断をしていきましょう。壊れたものを直し再建の道を教会の家族とともに歩めるよう、過去を打ち捨てていきましょう。

(要約者:牧 三貴子)

(1月14日)